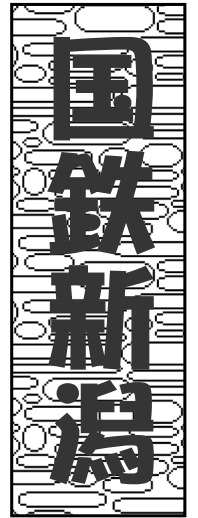


# 国労らしい運動 職場活動を 第五十九回定期地方大会開く



NO. 614  
発行  
07・10月10日  
国鉄労働組合  
新潟地方本部  
発行責任者  
守橋久仁雄  
編集責任者  
教宣部



## 一刻も早い解決を 守橋委員長 あいさつ

第五十九回定期地方大会が九月二十九日、十時より新潟市『新潟会館』で開催十二名の代議員から、JR不採用事件の闘い・労働条件改善・職場の闘いの報告・地域での取り組みなど発言がありました。

開会あいさつ  
加藤副委員長

★政治の流れは変わりつつある 暮らし・命・格差・貧困・構造改革路線など～美しい国づくりが参議院選でNOと判断。福田内閣もアメリカ追随、安倍内閣と変わらない。臨時国会でテロ特措法延長は新法案を提出する。反戦・平和の闘いが大きく広がっている。労働組合の重要な課題として全力を上げる。

★春闘について 流動的な政治。衆議院解散という状況からの春闘となる。人件費を押さえ込んでくる動きが強まる。貧困と格差を打開していく。公共交通を守る闘いと結合していく。共同行動を地域から積極的に取り組む。

★労働条件の闘い 安全・安定輸送確立の闘い 連日輸送障害が発生している。その原因は、合理化・効率化・システム化による。国交省も動いている。職場の状況は技術継承のあり方、教育のあり方が職場実態の中から指摘されている。検修の外注化・駅業務の外注化が広がっている。足元からの安全を。仕事を見つめ直す。仕事総点検・安全総点検の運動を通年闘争としていく。要求運動を取り組んでいく。

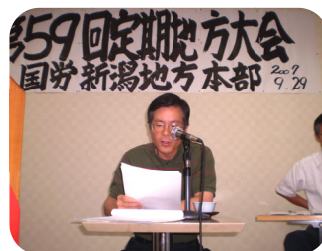
★組織強化・拡大について 中労委の一括和解で職場に変化が生まれている。差別の無い職場～拡大につながっている。青年の加入がある。JR東労組の浦和電車区脱退・退職強要事件判決で7名全員、有罪判決が出された。組織混乱が深まっている。長野などJR東労組の分裂が各地で引き起こされている。組織強化・拡大の点について新潟はどうであったのか。どんな困難があつたとしても組織強化・拡大に向けて地方本部も決意を新たにしたい。こんな時だからこそ国労らしい運動・職場活動をつくるために力を合わせたい。

★JR不採用事件の早期解決をめざす闘いについて 9月19日に四者四団体による申し入れ～①機構として解決の意思を明確にして政府国交省に働きかけよ②引き続き、申し入れには誠意ある対応を、の二点を。当面の目標である『解決交渉テーブル』の設置も求めた。解決に向けての大きな枠組みが確立。これを大事にして団結して突き進んでいく。年内が重要な闘い。裁判の動向、年内・年度内に判決が出される。10・27の県集会・11・30の中央集会の成功を。1日も早い解決をめざす。



## 地方が中央を ささえる闘いを

開会あいさつでは『国鉄闘争、二十年を超えさせない闘いについて全力を上げてきたが、まだ解決していない。しかし、各関係者が大同団結を勝ち取った。四者四団体で要請行動など展開、解決の運動を進めてきた。地方でも運輸局、労働局への要請行動を成功させている。四〇名の闘争団員が亡くなっている。一刻も早い解決を。地方が中央を支える闘いを。労働運動の強化を弱者いじめ、社会保障、貧困など選挙も大切だが労働運動も厳しい状況になっている。資本に対して労働運動、労働



## 議長 上石代議員

条件の改善を。そして連帯、強化を進めていく」と加藤副委員長からありました。 つづいて議長選出では直江津支部の上石和弘代議員が選出されました。



続いて来賓各位からあいさつがありました。東日本本部から山根執行委員が出席し当面する取組みなど情勢報告がありました。

- 来賓あいさつ
- ★社会民主党 山本副代表
- ★日本共産党県委員会 武田勝利氏
- ★新社会党県本部 小林委員長
- ★県春闘共闘・県労連 山崎議長
- ★交運共済 高橋所長

午前中、方針提案・予算・決算提案を行い、午後から質疑・討論に入りました。活発な議論が行われ大会は、十六時半ころ終了しました。代議員の発言内容については次号で記載します。  
また、新たな執行体制が確立しました。役員については、執行委員と会計監査員がそれぞれ一名づつ少なくなりました。

# 書記長集約

## 関川書記長



- ① J R 不採用事件について 早期解決を求める闘い 政治の場・ILO・裁判闘争・大衆行動を四者四団体が団結して闘っていく。10月27日の県集会・11月30日の中央集会の成功に向けて奮闘する。
- ② 労働条件改善の闘い 仕事・安全総点検運動を通年的に行っていく。職場に労働運動と活性化を迫っていく。地本が分代など集会へ直接入っていく。各支部で分代を開催して欲しい。地本を要請して欲しい。
- ③ 中労委一括和解について 一括和解以降、職場に浸透しているのか、取組みを直接行う。レク・指導車掌など具体的な内容について調査、取り組んでいく。
- ④ 組織拡大について エリア本部で19名の拡大があった。J R 新労組は4つの地本で発生している。規模は350名。一方、長野で国労への拡大が出ている。新潟は動きが少ない、見えないのが特徴的。これが新潟の特徴だと考える。  
浦和電区事件について 今後、現場で調査・情報の集中を。ライフサイクル～昨日提案できないと言ってきた。36協定について10月の段階で職場で動きがあるのでは。
- ⑥ 財政について 厳しい状況だ、改善について支出を少なくしていく。今後は大胆な方向で議論を。  
拡大が最重要課題だと考える。機関活動を立て直し拡大を達成していく。地本はその先頭に立っていくことを表明する。

# 新執行部

- 執行委員長 守橋久仁雄
- 副執行委員長 加藤荘一
- 書記長 関川和彦
- 執行委員 田澤 忍  
山田 久  
藤井明人
- 闘争委員 野村正三
- 会計監査委員 五十嵐利幸  
鷲尾太郎

**1047名の解雇撤回  
早期全面解決を目指す  
新潟県集会  
10月27日(土)  
県民会館小ホール**

